

二学年宿泊学習終わる！  
今週は一・三年生の番です。

二年生の宿泊学習が、  
 十月十一日の二日間、  
 東京・横浜方面で行わ  
 れました。「社会で活躍  
 できる大人を目指す」  
 をテーマに、企業  
 訪問や社会見学を通し  
 て、働くとはどういう  
 ことなのかを考えるい  
 い機会となりました。  
 生徒の感想を紹介しま  
 す。

横浜市街で

「横浜大世界に行つてたくさんの体験ができて良かった。はじめは場所が分からなかったけれど落ち着いて地図を見たら目的地に行くことができました。」

「中華街を散策したらいろいろな中華店があつて中国に行つた気分になった。とても楽しかつた。また行つてみたいと思ひました。」



横浜市街で

企業訪問で・・・

「ともに考え、ともにつく  
るとというのが朝日新聞社  
の考えだそうです。朝日  
新聞社を訪れて、新聞は  
いろいろな人の思いが詰  
め込まれたものだとい  
うことが分かりました。」

「有名な歌手がソニーミ  
ュージックに関係してい  
ました。ソニーミュージッ  
クで学んだのは、たくさ  
んの人たちがいるから今  
の自分が成り立っている  
ことが話から伝わってき  
ました。」

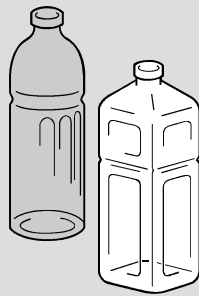
一部の生徒の感想でしたが、この宿泊学習で何かしら感じてきたようでした。今週は、一年生の東京遠足、三年生の京都方面の修学旅行が行われます。どんな体験をしてくるのか楽しみです。



朝日新聞社で

社会で「貢献」できた玉中生！  
うれしい話が入ってきました。

十日の夕方、学校に一本の電話が入ってきました。だいたいこの時間帯に入ってくるのは、自転車の方が悪いとかなどのあまりいい報告ではないのですが、この日の電話は近くのスーパーに買い物に行った女性の方から「荷物を車に運ぶ途中、ペットボトルを落としてしまった。拾おうと思うたが、片手には小さな子どもをだっこしていたので、手がふさがっていた。そこに玉中生がスツとよってきてペットボトルを拾ってくれて車



のところで運んでくれました。」という内容の電話でした。この話を聞いてうれしく思いました。何がうれしかったのかというと、普段、学校で話している「自立貢献」の「貢献」を実際の社会生活の中で活かすことができたからです。学校の勉強は、社会に出て活用できるようにするために勉強しています。学校ではできても、それを社会に出て活用できなければ身に付いたとは言えないのです。そういう意味でも、周りの目を気にせずに、自然に行動に移せる玉中生がいたということがうれしくなりました。これからもたくさん生徒が出てくることを期待しています。

# 引き渡し訓練お世話になりました！

十三日、幼小中学校連携による「引き渡し訓練」が行われました。昨年に引き続き二回目となりましたが、混乱もなく、無事一時分後には全生徒の引き渡しが無事終了しま



## 保護者への引き渡しの様子

た。保護者の皆様方には、平日のお忙しい中にもかかわらず、訓練にご協力をいただきましてありがとうございました。

り行方市も大きな損害を受けました。災害は、いつ何時起きるか分かりません。そのことは八年前の東日本大震災を経験しているのでお分かりのことと思います。日頃から災害への備えをしていきたいものです。

たくさんの方が  
授業を見に来ました。

十三日午前、本校を会場に「管内指導主事連絡協議会」（先生方を指導する立場の方たちの集まりです。）が開催されました。当日は、二年三組の学級活動の授業を参観しました。四十人近い先生方に囲まれ、生徒たちもだいたい緊張している様子でしたが、合唱コンクールに向けての話し合いに一生懸命取り組んでいました。

このようにたくさんの先生方が授業を参観されるということは、普段からみなさんが一生懸命授業に取り組んでいるからで、その姿を集まった先生方が今後の学校等への指導にいかそうと勉強しにきたわけです。



指導主事協議会の授業参観の様子

公開で、したが、次にこう  
いう機会があれば、どん  
どん他の学級でも公開し  
ていきます。本校ではい  
つでも、誰にでも学校に  
来ていただいて授業等を  
見ていただく「開かれた  
学校」を目指しています。

## 編集後記

「やらされているうちは強くはなら

日曜日、東京五輪のマラソン選手選考会(MGC)が行われた。一発勝負で東京五輪のマラソン選手が決まるということ、で世間の関心も高かった。優勝した選手は男女とも無名の選手で、大会前は決して評判は高くなかった。でも、二人に共通することがあった。それは、二人とも誰かが止めなければいつまでも走り続けてしまうほどの「練習の虫」だということだ。コーチに言われたことをするのはなく、自分で考えて練習に取り組んでいる姿が印象的であつた。

このマラソンを見ていて、夏に行われた高校野球の指導者が言っていたことを思いだした。これまで高校野球という、監督の言うとおりに練習し、そして動けばいいという印象があつた。しかし、今年は多くの指導者が「子どもたちが考えさせている」という話、が偶然かもしれないが多く出てきた。スポーツの世界でも、指導者に言われたことしかできない選手では上達はしない、自分で考えて練習することが、自分の力になっていくということに気づき始めたようだ。だから練習や試合でも選手に考えさせる場を設けている指導者が増えてきた。

本校の部活はどうだろうか？顧問の先生に言われたことしかしない練習では決して上手くはならない。言われたことを自分で考えて、そして自分で練習に取り組む、学校の練習だけでなく自分で工夫すること、が大事なのだと思う。一人で練習以外の時間でする練習が本当に身に付く練習なのか、もしれない。

(文責：小野口 吉政)

(文責：小野口 吉政)